

平成25年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7～9月)

医動物担当では、人の健康を害したり、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成25年7月から9月の種類同定検査件数は、9件でした。内訳は昆虫類4件(コウチュウ目1件、ハチ目3件)、その他の節足動物5件(クモ目2件、ダニ目2件、ムカデ綱1件)でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
夜間、畳の上をはっていた	 成虫、茶褐色、約4mm	アリマキモドキ科の一種 (コウチュウ目)	日本には小型種が多い。動作は敏しょうで活発に活動する。川辺、荒地の石の下、ゴミの下、草間、葉上などに多くの種が生息する。
木造住宅内の浴室周辺にアリがみられる	 働きアリ、褐色、約1.5mm	サクラアリ (ハチ目)	日の当たる乾燥した石下、落葉層、倒木内などに巣を造る。羽アリの飛出は10～11月。
浴室からアリが出てきた	 働きアリ、黒褐色、約6mm	アシナガアリ (ハチ目)	平地から山地までの林縁、林内の土中や石下に生息する。普通種で、日本に広く分布する。
木造住宅内で広くアリがみられる	 働きアリ、茶褐色、約1.5mm	ヒメアリ (ハチ目)	人家周辺の石下や枯れ枝の芯に孔を開けて巣をつくる。わずかな隙間から屋内に入り、砂糖、菓子類、乾肉などを食害する。梅雨期になると、家の中の隙間を巣にすることもある。
自宅でクモをみつけた	 成体、茶褐色、約8mm	ヒラタグモ (クモ目)	家の周囲や壁などの隅に白色円盤状の巣を作る。巣の周囲には受信糸をひき、それに触れた昆虫を捕まえる。夜間活動性で1年中出現する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
店舗内の机上で虫を発見した	 成体、黒褐色、約6mm	アリゲモの一種 (クモ目)	木の葉の上や地上などを徘徊する。体が細長く一見アリのように見える。
ベランダの手すりに多数の赤いダニがみられた	 成体、淡赤色、0.5mm	ハダニ類の一種 (ダニ目)	ハダニ類は植物寄生性で果樹、野菜、花などの農作物の害虫となるものが多い。一般に年間の発生数が多く、増殖率は高い。
左上腹部に虫体が付着していた	 成虫、黒色、約4mm	マダニ科の一種 (ダニ目)	体は大型で、成虫は数 mm 以上、吸血後には1cm を超えるものも少なくない。角化の強い背板をもつ。発育環のすべてのステージが寄生吸血性である。
家屋内で虫を発見した	 成体、暗褐色、約20mm	ムカデ類の一種 (ムカデ綱)	体が細長く多くの胴環節と脚をもつ。歩行は迅速な種が多く、生きた小動物を捕食する。がれき、朽木、落葉などが堆積する中に生息する。

【 検査研究課 医動物担当 】